

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社 すえ広企画		
事業所名	グループホーム じーちゃん・ぼーちゃんのお家		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370301016&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者側に立って、考える事をモットーとし、ホームでの生活が本人にとって居心地が良く、生き生きと生活して行けるよう、スタッフが全員同じ考えでケアする事を目指している。ホームがある場所は、鶴山公園の備中楼や夏の花火が良く見える所にあり、庭での食事をしながら、景色が楽しめる。又、隣には畑があり、野菜の収穫も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津山市中心部に近い住宅地にあり、白く低いフェンスの庭は開放的な印象を与え、「あきらめを希望に」のテーマのもと、入居者の基本的人権を尊重し希望が持てるホームを目指している。市中の脳神経外科専門医療機関と提携があり、緊急時の対応はもとより、認知症緩和等にも相談でき助言も受けられ、入居者は安心してホーム生活を送ることができる。諸費用を低く設定し誰でも安心して入れ、思いやりと温もりのある快適生活を目指している。「職員の心得」を作り施設長は職員のモチベーションアップに積極的に取り組み、職員のやる気と創意工夫が各所に見え、入居者の明るい笑顔は印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引き続きの前に当ホームの理念「あきらめを希望に変える様に支援致します」を声を出し唱え、入居者の方達が自信を持つにはどの様にしたら良いか常に研究し努力している。	事務室に理念・方針が掲示され月間目標がユニット別に作られ、毎朝引き継ぎの時A・B棟毎に職員は理念を唱和し、共有とその実践に努力している。	地域密着型の役割を果たす努力が鋭意行われているが、グループホームとしてその趣旨を理念に折り込んではいかがでしょうか。それによりホームの目標がより分かりやすく理解されるでしょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動、お涼み会、小学校の運動会等の行事に参加している。又、防災訓練等も行っている。近所の方が野菜を持参して下さったり、散歩の途中に会話をしたり、交流をしている。	地域の人からから白菜・大根を漬け物に、柚子茶にと柚子の差し入れがある。ヘルパー実習生やボランティアを受け入れ、ホームは地域活動に積極的に参加・交流している。	地域の社会資源である児童館訪問も考える積極的な社会参加意欲を進めてゆけば、より地域密着型のホームとして地元の福祉拠点となり、ロゴマークも地域密着のステップとなるでしょう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー実習の受け入れや医療関係者の見学、地域の方の見学等を通し、ホームでの工夫や対応の仕方等に対し質問があった時に話をして活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者に関する活動内容報告並びに職員に関する活動内容の報告を行い家族、市、職員と共に話し合いながらサービスの向上に努めている。	運営会議資料には詳細にホーム運営等の報告が分かり易く記載され、欠席者には会議録が資料と共に送付され情報を共有している。	運営推進委員に町内会長はじめ消防長・小学校長等多彩なメンバーが参加しており、その効果を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、生保、市との連携を持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	法律改正時に市主催の研修会等に出席して情報交換するなど、日常的にも市役所に向いて相談し助言を得ている。、又介護相談員の派遣を受け入れサービス向上に活かしている。	介護保険者である津山市とさらに接触を強化し、変化する規定・条例に早めに対応して安定したホーム運営を進めて下さい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が会議の中で、話し合いを持ち、禁止事項を事務所内に貼り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設以来身体拘束については最重要課題として取り組んでおり、身体拘束該当禁止項目が事務室に掲示されている。身体拘束排除マニュアルを設け職員会議等で勉強会をしており、拘束のないケアに取り組んでいる。	事故発生が安全のためとして身体拘束に繋がる蓋然性を考慮し、ヒヤリ・ハットの事例も冷蔵庫に直ぐ貼り付けている。直ちに検討することは、いたずらに拘束しないケアに結びつくものと評価したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者、職員は高齢者虐待防止法を学び事業所内での虐待がない様注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び、成年後見制度について学び、活用できるよう支援しているが、今現在は利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は入居者や家族等の不安や疑問等を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をとうし、家族、管理者、地域の方、市職員等の出席により意見、要望等を受けたものを運営に反映させている。	家族全員に運営推進会議への出席案内を出しており、終了後の雑談の中に出る本音も大切にしている。「苦情・相談・事故マニュアル」を何度も読み共有し、本人・家族の意向要望をくみ上げるようにしている。	ホームに家族用の相談室を設け、親密に家族の意見要望を聞く姿勢がある。積極的に家族の意見を反映しようとするもので、24時間訪問面会可は開明的でこれからも進めて下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議及びミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月定例会議やミーティングで職員の意見・要望を聞き、運営やケア実践に生かしている。職員会議録の複写を欠席者に渡すことになっている。	コピーを欠席者に渡す場合、確認サインなど取って情報共有を確実にすれば、より職員意見の反映に繋がると思っています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の努力、実績、勤務状況の把握、及び各自が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保は行っており、社内研修により、技術の取得。テストによるレベルアップを図ってる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他のホームと交流する機会を作り勉強会や、相互訪問の活動、サービスの質の向上に積極的に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し安心して過ごして頂けるよう毎日の申し送りで伝えて行き良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、できるだけいつでも相談に乗れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、相談の上随時、サービスの変更ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物の同行、散歩、食事の下準備、洗濯物干し、後片付け等、出来る事は職員といつも一緒に行うよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭への電話の要望、体調不良、面会等、家族・本人の絆を大切に支えていく関係を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	はがき、手紙、電話、面会等で馴染みの人や、馴染みの場所の情報を伝える事により、関係が保たれるよう支援をしている。	毎日のようにひっきりなしに面会者があり、電話の取り次ぎも多く、手紙を出す手伝いもし、新たに馴染の関係も生まれている。昔馴染んだ物や写真を目に入りやすい場所に置く配慮がある。	墓参りや故郷訪問の機会を作り、ドライブ等での外出を実施されればホームの雰囲気も変わって来るでしょう。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話、レクリエーション等を通して孤立しないよう、声かけをしたり、ミーティング、申し送り等で、話し合い個人個人を大切にした支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された本人・家族に対し連絡を取ったり、訪問や支援事業所より現状を聞いたり、つねに気にかけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に話をする機会をできるだけ作り、今の思いとどんな暮らしを望んでいるか、会話を楽しみながら把握に努めている。困難な場合は、できるだけ希望に従っていけるよう全体で検討する。	細かなアセスメントで入居者の気持ちを把握し、本人の眠っていた力を呼び戻すようにしている。会話の中でぼろっと漏らしたことも大切にし、その人の意思に基づく暮らしの支援に繋げている。	個別ケアの基盤はその人に対する理解により、情報の質と量はサービスの内容を分けるとする観点に立つと、介護経過に本人その人の言葉がもう少し書かれても良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について家族の情報や支援事業所等からの情報の把握をするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力の現状を毎日の生活を通し、スタッフ間で情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合いながら意見、アイデアを生かし個人に即した方法や、本人の気持ちを第一に考えた介護計画を作成するよう努めている。	担当者制を取りミーティングで事細かに検討し、家族と話し合いプランが作られている。アセスメントは綿密で対象者の状況が分かり易く、記録はチームプレー上大切な道具としており、具体的な介護計画となっている。	日々の介護経過記録に入居者本人の言葉がもう少し有れば、よりその人の現況が分かり、モニタリングが効果的になってくると思います。施設長が記録についてさらに研究したいという意向に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の引き継ぎ及び毎月のミーティング等で、ケア日誌等を元に話し合いながら実践並びに介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況及びその時々生まれるニーズに対応できるよう、余裕のあるスタッフの人数と、サービスの多機能化を考え工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている祭りに参加したり、ボランティアの来所を通し本人の力を発揮でき安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の要望を大切にし納得が得られたかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう同行したり、手紙をそえたりして支援している。	「かかりつけ病院詳細情報」がA棟・B棟別に事務所に張っており、受診について行く家族には医師に伝える本人の現況を説明している。	本人・家族と情報を共有し、早めに適切な医療を受けて快適なホーム生活が続けられるよう期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は密に連携を取り利用者が適切な受診を、往診看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換及び相談に努め病院の入院、退院時には添書の交換を行っている。又、退院にあたっては、病院に行きホームでの生活がスムーズに出来るよう情報を貰って来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と十分な話し合いを何度も持ちながらホームでの看取りとなるか、出来る事出来ない事を話し合いながらその都度取り組んで行き支援している	入院していたが、このホームでお世話になりたいと、たつての要望で職員・家族が心合わせて看取った例もある。終末期に希望によりスタッフと共に自宅に帰り仏壇に手を合わせた例もある。重度化した場合の指針を設けている。	馴れ親しんだホームで最後まで過ごしたい入居者の気持ちを汲み取り、その気持ちに添った終末介護を推進出来る体制を整備するよう期待いたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は応急手当及び初期対応の練習を消防署にて受けている。又、マニュアルを作成し、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は実際に公民館まで行き、全員が避難できるように訓練を行った。	防災及び非常災害マニュアルがあり、消防署指導のもと火災訓練、夜間を想定した防災訓練を年1回ずつしている。予知せず緊急招集の訓練もある。地域の参加は今のところ無いが職員が地域の防災訓練に参加している。	一日も早く防災システムに地域住民の参加を求め、地域防災対策にタイアップしてください。地域防災に職員が参加していること、及び避難場所の公民館まで実際に歩いて行った訓練は評価出来ます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に努力している。月間目標などを作り、スタッフが気にかけて実行している。	「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を設け「職員の心得」でも入居者のプライバシーを守るようにしている。トイレ・居室に新聞紙を用意し、汚れ物等は人目にさらさないようにして入居者の羞恥心に配慮し、個々の人格を尊重している。	入居者の意向を尊重し、人生の先輩への尊厳維持の方針をさらに進め、その経験・能力を理解しホーム運営に生かすならば、素晴らしい生き甲斐のあるホーム生活となるでしょう。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で自己決定が出来る声かけをし、選ぶ事が出来るように、飲み物のオーダーを取ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床が遅くなる方に対しては起床した時に朝食となるように配慮している。入浴の時間も順番に関係なく快く応じられた方からになったり、朝からの時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容院の訪問等があり、その人に合ったその人らしいおしゃれな身だしなみを楽しんで頂けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人一人の好みを尋ねそれを活かして楽しんで頂く。又、利用者と共に職員と一緒に食事の下準備、後片付け等行なっている。誕生日会、行事等は入居者に希望を聞き、献立を作成している。	入居者の意向を考え献立し、ジャガイモの皮むきや茶碗洗い、地域からの大根・白菜を漬ける等明るくおしゃべりして手伝っている。「パンダのたからもの」と口腔体操し、懐メロが流れる中、マイペースで職員と共に楽しく食事している。	内容を明確に示し出来ることを手伝って貰う、それにより自分達で作った料理と言う自負心は自信に繋がり、生き甲斐を取り戻すケアの工夫があり評価したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量を記録し一日の状態を把握している。9時頃には緑茶、10時には、オーダーで飲み物、15時には、お茶とお菓子等で対応し、出来るだけ全員が1000cc以上になる様に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診も要望に応じ受診している。又、毎食後の口腔ケアに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況により、紙パンツになった方も、また、布パンツにもどれるよう、スタッフが細やかな情報のやり取りをしながら自立にむけた支援をしている。	布パンツを主にしてぎりぎりまで布パンツ使用を支援している。夜間ポータブルの人もいる。汚れ物は新聞紙でくるむなどなるべく隠し、誘導は耳元でそっと話し、本人の羞恥心に配慮して自立への支援をしている。	個々の排泄パターンや習慣に合わせて、自然排泄に向けての支援は自立への基本であり、その効果が顕著になってくるでしょう。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、朝起床時のコップ一杯の冷牛乳、及び水分摂取、運動に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間を気にする事がない様できるだけ声かけをしたり、一度ことわられたときも、又時間を置いて声かけをする事で楽しめるよう支援をしている。	浴場はコミュニケーションの場となり昔話に花が咲き、歌を歌ったり入浴剤で温泉巡り等を楽しむ工夫が有る。希望により同性スタッフが介助している。	入浴は快適生活の大きな要素であり、リラックスした楽しい状況を作り出し、「諦めを希望へ」のテーマ実現に努力して下さい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じ、眠れない方に対しては夜勤のスタッフと会話をしたり、暖かい飲み物を一緒に飲みながら、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的、副作用、用法、用量は全職員が理解しており服薬の支援、症状の悪化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、慰問、レクリエーション等での気分転換の支援に努めている。役割、分担表等を作り、いつも同じ仕事が自分の仕事となるように支援してる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物の同行、散歩、日光浴等、又、春の花見、秋の紅葉見学等家族の協力等を得て行っている。	食材の購入と一緒にいくこともあり、気軽に近くのコンビニに行ったり散歩に出るのが普通の生活となっている。初詣・花見・紅葉狩り等は全員参加の外出支援をし地域や自然との触れあいを進めている。去年はインフルエンザのため外出は自粛している。	日常的に自由な外出は社会生活上不可欠であり、長年培った地域との深い関係を、さらに進め、地域密着型ホームの推進に努力して下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先では本人の希望での使用、又買い物同行にて、援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話を利用できるようにしてかけたい時に支援している。手紙、はがきは物品の支援等や届いた物を本人へ渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、四季四季に応じた飾り付けを行い居心地良く過ごして頂けるよう工夫を凝らしている。天窓から雲の流れ、中庭から雨や雪の様子が見られ刺激になって会話がはずんでいる。	2年かけて集めたホテルのキャットで「シーちゃん・ぱーちゃんのお家」のロゴを作る等、職員のアイデアによる創意工夫が見られる。当日も中庭に降る雪が趣を感じさせ、ソファー・畳コーナーと何処でも寛げる工夫が取り入れられ安らぎの居間作りが出来ている。	採光・音楽・香り等入居者の五感を心地よく刺激する試みが行われている。その試みにさらなる工夫を加え、入居者がより居心地良く過ごせる共有空間になるよう期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるようソファー、リビング、居室での工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、好みの物を持参して頂き居心地よく過ごせるよう工夫している。	机・茶筆筒・鏡等大切に使っていたもので部屋造りがされており、雑誌・写真など思い出に繋がる物も置いてある。アルバムを持ってくことを推奨している。	日々の会話の中から思い出に繋がる物を見つけさらに家族と話し合い、安心して気持ち良く暮らせる個室作りに精励して下さい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等をわかりやすくしたり、居室に名前を書いたり、目じるしがあったり、自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社 すえ広企画		
事業所名	グループホーム じーちゃん・ぼーちゃんのお家		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370301016&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引き続きの前に当ホームの理念「あきらめを希望に変える様に支援致します」を声を出し唱え、入居者の方達が自信を持つにはどの様にしたら良いか常に研究し努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動、お涼み会、小学校の運動会等の行事に参加している。又、防災訓練等も行っている。近所の方が野菜を持参して下さったり、散歩の途中に会話をしたり、交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー実習の受け入れや医療関係者の見学、地域の方の見学等を通し、ホームでの工夫や対応の仕方等に対し質問があった時に話をして活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者に関する活動内容報告並びに職員に関する活動内容の報告を行い家族、市、職員と共に話し合いながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、生保、市との連携を持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が会議の中で、話し合いを持ち、禁止事項を事務所に貼り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者、職員は高齢者虐待防止法を学び事業所内での虐待がない様注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び、成年後見制度について学び、活用できるよう支援しているが、今現在は利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は入居者や家族等の不安や疑問等を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をとうし、家族、管理者、地域の方、市職員等の出席により意見、要望等を受けたものを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議及びミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の努力、実績、勤務状況の把握、及び各自が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保は行っており、社内研修により、技術の取得。テストによるレベルアップを図ってる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他のホームと交流する機会を作り勉強会や、相互訪問の活動、サービスの質の向上に積極的に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し安心して過ごして頂けるよう毎日の申し送りで伝えて行き良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、できるだけいつでも相談に乗れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、相談の上随時、サービスの変更ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物の同行、散歩、食事の下準備、洗濯物干し、後片付け等、出来る事は職員といつも一緒に行うよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭への電話の要望、体調不良、面会等、家族・本人の絆を大切に支えていく関係を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	はがき、手紙、電話、面会等で馴染みの人や、馴染みの場所の情報を伝える事により、関係が保たれるよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話、レクリエーション等を通して孤立しないよう、声かけをしたり、ミーティング、申し送り等で、話し合い個人個人を大切にした支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された本人・家族に対し連絡を取ったり、訪問や支援事業所より現状を聞いたり、つねに気にかけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に話をする機会をできるだけ作り、今の思いとどんな暮らしを望んでいるか、会話を楽しみながら把握に努めている。困難な場合は、できるだけ希望に従っていけるよう全体で検討する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について家族の情報や支援事業所等からの情報の把握をするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力の現状を毎日の生活を通し、スタッフ間で情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合いながら意見、アイデアを生かし個人に即した方法や、本人の気持ちを第一に考えた介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の引き継ぎ及び毎月のミーティング等で、ケア日誌等を元に話し合いながら実践並びに介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況及びその時々生まれるニーズに対応できるよう、余裕のあるスタッフの人数と、サービスの多機能化を考え工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている祭りに参加したり、ボランティアの来所を通し本人の力を発揮でき安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の要望を大切にし納得が得られたかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう同行したり、手紙をそえたりして支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は密に連携を取り利用者が適切な受診を、往診看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換及び相談に努め病院の入院、退院時には添書の交換を行っている。又、退院にあたっては、病院に行きホームでの生活がスムーズに出来るよう情報を貰って来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と十分な話し合いを何度も持ちながらホームでの看取りとなるか、出来る事出来ない事を話し合いながらその都度取り組んで行き支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は応急手当及び初期対応の練習を消防署にて受けている。又、マニュアルを作成し、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は実際に公民館まで行き、全員が避難できるように訓練を行った。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損なわないよう言葉かけや対応に努力している。月間目標などを作り、スタッフが気にかけて実行している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で自己決定が出来る声かけをし、選ぶ事が出来るように、飲み物のオーダーを取ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床が遅くなる方に対しては起床した時に朝食となるように配慮している。入浴の時間も順番に関係なく快く応じられた方からになったり、朝からの時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容院の訪問等があり、その人に合ったその人らしいおしゃれな身だしなみを楽しんで頂けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人一人の好みを尋ねそれを活かして楽しんで頂く。又、利用者と共に職員と一緒に食事の下準備、後片付け等行なっている。誕生日会、行事等は入居者に希望を聞き、献立を作成している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量を記録し一日の状態を把握している。9時頃には緑茶、10時には、オーダーで飲み物、15時には、お茶とお菓子等で対応し、出来るだけ全員が1000cc以上になる様に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診も要望に応じ受診している。又、毎食後の口腔ケアに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況により、紙パンツになった方も、また、布パンツにもどれるよう、スタッフが細やかな情報のやり取りをしながら自立にむけた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、朝起床時のコップ一杯の冷牛乳、及び水分摂取、運動に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間を気にする事がない様できるだけ声かけをしたり、一度ことわられたときも、又時間を置いて声かけをする事で楽しめるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じ、眠れない方に対しては夜勤のスタッフと会話をしたり、暖かい飲み物を一緒に飲みながら、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的、副作用、用法、用量は全職員が理解しており服薬の支援、症状の悪化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、慰問、レクリエーション等での気分転換の支援に努めている。役割、分担表等を作り、いつも同じ仕事が自分の仕事となるように支援して。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物の同行、散歩、日光浴等、又、春の花見、秋の紅葉見学等家族の協力等を得て行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先では本人の希望での使用、又買い物同行にて、援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話を利用できるようにしてかけたい時に支援している。手紙、はがきは物品の支援等や届いた物を本人へ渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、四季四季に応じた飾り付けを行い居心地良く過ごして頂けるよう工夫を凝らしている。天窓から雲の流れ、中庭から雨や雪の様子が見られ刺激になって会話がはずんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるようソファ、リビング、居室での工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、好みの物を持参して頂き居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等をわかりやすくしたり、居室に名前を書いたり、目じるしがあったり、自立した生活が送れるよう工夫している。		